

愛知県感染症情報

Infectious Diseases Weekly Report

平成 19 年 15 週 (4 月 2 週 4/9 ~ 4/15)

(作成) 愛知県感染症情報センター (愛知県衛生研究所内)

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/kansen.html>

E-mail: eiseiken@pref.aichi.lg.jp

連絡先: 052-910-5619 (企画情報部)

今週の内容

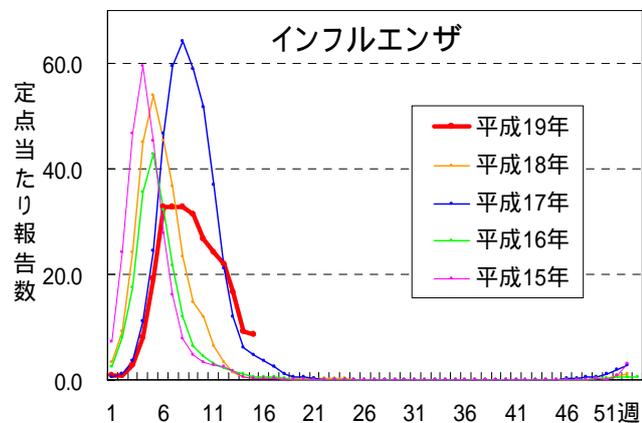
- ・ 注意する感染症
- ・ 病原体検出情報
- ・ 定点医療機関コメント
- ・ 全数把握感染症発生状況
- ・ 感染症だより (3 月後半 / 4 月前半)
- ・ WHO 疫学週報抄訳
2007 年 3 月 30 日 (82 巻 13 号)
ポリオ; ナイジェリア の状況, WHO 感染症警告情報 06 年のまとめ
- 2007 年 4 月 6 日 (82 巻 14 号)
リフトバレー熱; タンザニア、麻しん; 韓国の麻しん根絶作戦
- ・ 定点把握感染症報告数 (保健所別、年齢別)

注意する感染症

インフルエンザ警報発令中

15 週の定点あたりインフルエンザ患者報告数は 8.5 人 (前週比 0.9 倍、1,813 人 1,655 人) です。5 保健所管内で定点あたり患者報告数が 10.0 人以上 30.0 人未満となっています。インフルエンザ警報は定点あたり患者報告数が 10.0 人未満になるまで継続します。

「集団かぜ」は 4 月 18 日現在で延べ 636 施設から報告されています (概要は以下の発表内容をご覧ください)。これまでの患者からインフルエンザウイルス A 香港型および B 型が分離されています。



【発表内容】

- ・ インフルエンザ警報 ; <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/hodo070208flukeiho.pdf>
- ・ 第 44 報 ; <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/hodo070417.pdf>

【参考ページ】

インフルエンザウイルス分離状況 http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/infbunri06_07.html



その他のグラフは「グラフ総覧」をご覧ください。
<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/graph.pdf>

平成18年度疾患別ウイルス検出情報（速報）

<平成18年4月から平成19年3月に発症した患者の検査結果です。>

	胃腸炎 感染性	手足口病	ヘルパンギーナ	咽頭結膜熱	急性 流行性 角膜炎	髄膜炎 無菌性	急性脳炎	インフルエンザ
患者数	491(359)	135(11)	92(5)	28(4)	55	70(13)	11(3)	189(180)
PV-1	7(4)	-	1	-	-	-	-	-
PV-2	6(4)	-	-	-	-	-	-	-
PV-3	15(14)	-	-	-	-	-	-	-
CV-A2	-	-	1	-	-	-	1	-
CV-A4	-	-	39	-	-	-	-	-
CV-A5	-	-	10(2)	-	-	-	-	-
CV-A16	-	20(7)	2	-	-	1	-	1(1)
EV-71	1	58	-	-	-	4(1)	-	-
CV-A9	1	1	1	-	-	1	-	-
CV-B2	-	-	1(1)	-	-	1(1)	-	-
CV-B3	-	2	-	-	-	-	-	-
CV-B4	3(1)	-	2	-	-	-	-	-
CV-B5	-	-	-	-	-	1(1)	-	-
E-7	1	-	-	-	-	-	-	-
E-18	9(3)	-	1	-	-	8(1)	-	-
E-25	5(1)	1	-	-	-	-	-	-
E-30	-	-	-	-	-	-	1(1)	-
HRV	-	-	-	-	-	-	-	1(1)
HPeV-1	1	-	-	-	-	-	-	-
HPeV-3	3	3	2	-	-	2	-	-
HPeV-4	1	-	-	-	-	-	-	-
Flu.AH1	-	-	-	-	-	-	-	7(7)
Flu.AH3	-	-	-	-	-	-	-	37(37)
Flu.B	-	-	-	-	-	-	-	79(75)
HMPV	-	-	-	-	-	1	1	-
Mumps	-	-	-	-	-	1(1)	-	-
Rota A	7(7)	-	-	-	-	-	-	-
Rota A-G1	9(3)	-	-	-	-	-	-	-
Rota A-G3	15(7)	-	-	-	-	-	-	-
Rota A-G9	11(11)	-	-	-	-	-	-	-
NV-G1	3(2)	-	-	-	-	-	-	-
NV-G2	61(60)	-	-	-	-	-	-	-
Ad-1	6(1)	-	1	-	-	-	-	-
Ad-2	4(4)	1(1)	2	2(1)	-	1(1)	-	-
Ad-3	7(3)	3	3	17(2)	14	-	-	1(1)
Ad-4	-	-	-	1	-	-	-	-
Ad-5	6(4)	-	1	-	-	-	-	-
Ad-6	4(3)	-	-	-	-	-	-	-
Ad-31	1	-	-	-	-	-	-	-
Ad-37	-	-	-	-	6	-	-	-
Ad-41	7(4)	-	-	-	-	-	-	-
検査中	29(29)	-	-	1(1)	-	-	-	35(35)
陰性	282(188)	46(2)	28(2)	7	35	48(6)	8(2)	28(23)

() : 10月以降の患者数を再掲しました。

PV: ポリオウイルス

CV: コクサッキーウイルス

EV-71: エンテロウイルス 71 型

E: エコーウイルス

HRV: ヒトラノウイルス

HPeV: ヒトパレコウイルス

Flu.AH1 : A ソ連型インフルエンザウイルス

Flu.AH3 : A 香港型インフルエンザウイルス

Flu.B : B 型インフルエンザウイルス

HMPV: ヒトメタニューモウイルス

Mumps: ムンプスウイルス

Rota A: A 群ロタウイルス

NV: ノロウイルス

Ad: アデノウイルス

定点医療機関コメント（名古屋市除く）

尾張西部地区

インフルエンザ 43 名（A 型 41 名、B 型 2 名）まだインフルエンザ出ています。

【一宮市 一宮市立市民病院】

40 歳女性 マイコプラズマ

【一宮市 後藤小児科医院】

病原性大腸菌 O-1 1 歳男 1 名 3 歳男 1 名、O-25 2 歳男 1 名

【一宮市 城後小児科】

インフルエンザ A 型 5 名のみ

【一宮市 平谷小児科】

インフルエンザ A 型、会社で流行していました。

【一宮市 医療法人かすが内科】

インフルエンザ A 型 8 名、B 型 2 名

【稲沢市 稲沢市民病院】

インフル A 型のみ 24 例

水痘目立ちます。

【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】

インフルエンザ 21 名（すべて A 型です）

感染性胃腸炎の流行続いています。

A 群溶連菌感染症 少し増加してきました。

【江南市 みやぐちこどもクリニック】

犬山市南部で A 型インフルエンザが少しありますが、高齢のワクチン接種者も罹患しています。

【犬山市 武内医院】

3 歳女、1 歳女、4 歳女、1 歳男 ロタウイルス（+）

10 歳女 マイコプラズマ肺炎

【春日町 丹羽医院】

インフルエンザ A 型 13 名

【津島市 医療法人参育会加藤医院】

尾張東部地区

ロタウイルス性腸炎を含めた感染性胃腸炎がまた増加しました。

インフルエンザは A 型 9 名、B 型 1 名のみです。

水痘も多くみられます。

【瀬戸市 津田こどもクリニック】

インフルエンザ減少（6 例は全て A 型）

水痘小流行あります。

その他感染性胃腸炎等

【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院】

A 型インフルエンザ 4 名

【豊明市 豊明団地診療所】

インフルエンザ落ち着いてきました。

水痘を少しずつ診るようになりました。

【春日井市 春日井市民病院】

ロタ胃腸炎多数続く

水痘増加

インフルエンザ減少 A 型 10 例 B 型 4 例

【春日井市 朝宮こどもクリニック】

インフルエンザ A 型のみ

【春日井市 片山こどもクリニック】

ロタ腸炎、インフルエンザ（A 型がほとんど）ともに減少中

【小牧市 小牧市民病院】

インフルエンザ減少しました。

【小牧市 志水こどもクリニック】

インフルエンザ A 型 3 人

【小牧市 医療法人心正会鈴木小児科】

インフルエンザはすべて A 型です。

【半田市 半田市立半田病院】

A 5 名

【半田市 医療法人おっかわこどもクリニック】

インフルエンザ A 9 名

【半田市 医療法人林医院】

マイコプラズマ肺炎 1 名

A 型インフルエンザのみ 5 名

【美浜町 厚生連知多厚生病院】

インフルエンザ A 型 7 名

ロタ腸炎 1 名

インフルエンザはすべて A 型です。

胃腸炎流行してます。

溶連菌感染症ちらほらいます。

【大府市 まえはらこどもクリニック】

インフルエンザ A 型 6 名

感染症胃腸炎 ロタ 3 名

【東海市 東海市民病院】

西三河地区

インフルエンザA (+) 4名
インフルエンザB (+) 2名
ロタウイルス (+) 5名
StrepA (+) 6名
1歳女 E.coli (O18)
【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】
インフルエンザA型 12名
【豊田市 田中小児科医院】
インフルエンザA型 9人
インフルエンザB型 1人
【豊田市 足助病院】
アデノウイルス 4歳男、3歳男、3歳女
病原性大腸菌O6 (+)
カンピロバクター 8歳男
インフルエンザ2例はA型
【岡崎市 花田こどもクリニック】
3歳男 ロタウイルス感染症
4歳男 病原性大腸菌O74 VT(-)
インフルエンザ減りましたが、全例A型
です。
溶連菌感染症少し増えています。
【岡崎市 竜美ヶ丘小児科】
アデノ (+) 1歳男、5歳男、4歳女、1
歳女
7歳男 カンピロバクター (+)
インフルA 2例
【岡崎市 にいのみ小児科】
インフルエンザは全てA型
【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】
全員インフルA
【岡崎市 医療法人志貴こどもクリニック】

A型: 8名(予防接種済4名)、B型: 1名、
疫学診断: 2名でした。
【岡崎市 粟屋医院】
インフルエンザA型 5名(ワクチン済1名)
【岡崎市 医療法人永坂内科医院】
感染性胃腸炎が目立ちます。
【碧南市 永井小児クリニック】
インフルエンザはすべてA型
ロタウイルス腸炎 1歳男、5か月女
マイコ感染症 8歳女
【刈谷市 田和小児科医院】
インフルエンザ 検体数 130
A型 47 B型 1
【安城市 厚生連安城更生病院】
インフルエンザA 5名
【知立市 宮谷クリニック】
A型1名
感染性胃腸炎が流行しています。
【三好町 三好町民病院】
ロタウイルス 2歳男、3歳男
感染性胃腸炎増加
インフルエンザ14名(A 13人、B 1人)
【西尾市 山岸クリニック】
10歳男 病原性大腸菌 O74 (VT-)
7歳男 病原性大腸菌 O1 (VT-)
7歳男 アデノ (+)
【幸田町 とみた小児科】
6歳男 カンピロバクター
【西尾市 こどもクリニック宮地医院】
インフルエンザA 34歳女
感染性胃腸炎が増加
【西尾市 やすい小児科】

東三河地区

ロタウイルス 1名
【豊橋市 マミーローズクリニック】
学校が始まったらインフルエンザAが増
えました。
【豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科】
保育園児を中心に嘔吐・下痢が増えてき
ました。
【豊橋市 あずまだこどもクリニック】

2歳男 アデノ扁桃炎
【豊橋市 医療法人野村小児科】
14名すべてA型インフルエンザでした。
【豊橋市 医療法人杉浦内科】
インフルエンザA型 12名
【豊橋市 おだかの医院】
インフルエンザはA型 29名、B型 3名の
計 32名でした。
【豊橋市 医療法人羽柴クリニック】

一 ～ 三類感染症の発生状況 - 愛知県(名古屋市を除く。) -

<関連リンク> 届出基準 (<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokedekijun070401.pdf>)

結核 (二類感染症)							
番号	報告保健所	年齢	性別	発病月日	初診月日	診定月日	備考
1	豊田市	77	女	2 / -	3 / 23	4 / 11	
2	西尾	46	女	1 / 29	1 / 29	4 / 6	
3	西尾	60	男	3 / 8	3 / 8	4 / 6	

四類・五類(全数把握)感染症の発生状況 - 愛知県(名古屋市を除く。) -

後天性免疫不全症候群 2例

AIDS、推定感染地域；ブラジル、推定感染経路；性的接触
無症候期、感染地域；不明、感染経路；不明

アメーバ赤痢 1例

・推定感染地域；国内、推定感染経路；性的接触

感染症だより(3月後半/4月前半)

平成19年4月19日

愛知県衛生研究所企画情報部(文責 磯村)

4月になって20日、勤務先では挨拶回りも済んで引継ぎも完了、新しいファイルをそろえ、パソコンの新しい機種にモタモタしたり、学校では進学・進級で新しいメール仲間が増えているこの頃です。いつも貴重な情報を有難うございます。3月後半/4月前半のまとめをお送りします。

- 1) 名古屋市内。城北病院渡辺先生から細菌性髄膜炎が続けて3例(1例はGBS、他は同定出来ず)、インフルエンザAがまだパラパラ、急性胃腸炎もパラパラあり、腸重積の合併例あり、第二日赤岩佐先生からはロタウイルス腸炎の入院患者あり、千種区今枝先生からは伝染性紅斑の6歳女児、水痘の1歳女児、感染性胃腸炎の成人女性あり、三菱病院入山先生からはA群溶連菌感染症咽頭炎3名、感染性胃腸炎2名、水痘2名(1名口内炎合併で入院)、インフルエンザA型2名(1名入院)、肺炎・気管支炎の入院6名(うち2名がマイコプラズマ性)、大同病院水野先生からはインフルエンザは減少傾向、RSウイルス感染症がまだあり、気管支炎で入院、ロタウイルス腸炎(入院例あり)が続き、インフルエンザ桿菌の化膿性髄膜炎あり、とのお手紙でした。

2) 尾張地区：犬山市武内先生からはA群溶連菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘がそれぞれ散発中でA型インフルエンザの小流行が続いている、江南市昭和病院小児科からはA型インフルエンザがまだあり、ロタウイルス性胃腸炎の入院が目立つ、津島市民病院沼田先生からはロタウイルス感染症とインフルエンザA（生後3週、1ヶ月、2ヶ月の乳児の入院例あり）が目立つ、常滑市民病院高橋先生からはロタウイルス胃腸炎が多く、入院も目立ち、患者の母親など成人の重症感染例が目立ち、インフルエンザは減少したがA型あり、ヘルペス口内炎数例あり、とのお手紙でした。

3) 三河地区：トヨタ病院木戸先生からはインフルエンザがチラホラあり、ロタウイルス腸炎が多発中で入院例も多い、肺炎球菌感染症がチラホラ、加茂病院梶田先生からはインフルエンザは若干減ってきた（A>B、Bはほとんどない）、ロタウイルス性腸炎が多く、入院が目立ち、MCLSが3例あり、刈谷市田和先生からはインフルエンザ16名、ほとんどがA型、マイコ感染症8名、ロタ腸炎、サルモネラ（O4）が各1名、安城更生病院小児科からはロタウイルス腸炎の入院が増加、碧南市永井先生からはA型インフルエンザ時々、ロタウイルス感染症を含む感染性胃腸炎が目立つ、豊橋市からはA型インフルエンザ（減少）、ロタウイルス胃腸炎、ウイルス性気管支炎などが目立つ、（市内長屋先生、宮澤先生）とのお手紙でした。有難うございました。

2007年3月30日(82巻13号) <http://www.who.int/wer/2007/wer8213/en/index.html>

ポリオ。ナイジェリアにおける根絶計画進捗状況。05年1月-06年12月。06年時点でポリオウイルスの国内伝播が根絶出来ていないのは4カ国に減少（アフガニスタン、インド、ナイジェリア、パキスタン）中ではナイジェリアが最大流行国で、全世界で06年に2,002例の届出があったうち1,129例（56%）を占めており、ナイジェリアのポリオが根絶できれば世界ポリオ根絶が大きく進捗する。ナイジェリアは総人口1億4千万人、北部各州でポリオ生ワクチン（OPV）定期追加接種（Supplementary Immunization Activities, SIAs）が中止された結果03-04年にポリオ発生が復帰、野生株がナイジェリア国内とそれまでポリオフリーであった19カ国に伝播した。その後SIAsが再開されたが普及せず（注：宗教的指導者の反対など）、接種率が低くて、ポリオ野生株確認例は04年782例、05年830例、06年-07年3月23日には1,129例と増加、この増加に対応して06年から1型単価ワクチンが導入されている。本報は05年1月-06年12月の要約である（注。ナイジェリアの南北問題：北部はカノ市を中心としたイスラム圏で宗教的指導者の影響が大きく、南部は非イスラム地区で世界有数の産油地帯。独立後ビアフラ内戦と呼ばれる悲惨な内乱など国内紛争頻発、貧富の差が大きく現在も治安不良で公衆衛生活動は最低である）。（1）予防接種活動：05年のポリオ生ワクチン3回（OPV3）の全国定期接種率は31%であり、州によって10-57%の差があり、北部各州の低さが目立っている。05年、政府は全国的SIAsを4回、地方SIAsを2回実施、06年3月には1型単価生ワクチンで北部全州を含む全国37州中32州でSIAs実施、5月、6月、9月は単価生ワクチン、11月には3価ワクチンが接種された。乳幼児に対するDTP三混、麻疹、妊婦に対する破傷風トキソイドが接種会場での集団接種と戸別訪問で接種、ターゲットの州の平均72%の行政地区で実施されている（他に衛生活動として乳幼児のビタミンA投与、石鹸、解熱鎮痛剤、経口輸

液粉末、駆虫剤、殺虫剤塗布蚊帳の普及実施)。(2)急性弛緩性麻痺(AFP)サーベイランス：非ポリオAFP患者届出数は15歳未満小児人口10万当り05年7.6例、06年7.9例でWHOのポリオサーベイランス指標の2例以上を満たしていた。AFP届出例の85%以上から適切な検査材料が搬入されること、という要件も06年には86%の州で達成されていた。生後6-59ヶ月非ポリオAFP小児のOPV接種状況は05年初期にはOPVゼロで非ポリオAFP患者はAFP全体の49%であったのが06年10-12月には18%となっていた(表あり)。(3)野生株ポリオ(WPV)の発生：05-06年の1,959例で830例(42%)が2歳未満、1,867例が5歳未満小児で、1,483例(76%)がOPV接種3回未満であった。05年のWPV830例のうち580例が1型、250例が3型、06年の1,129例では1型851例、3型278例であり、カノ市を中心とする北部各州に集中していた(地図あり)。

疫学的警報と確認(Epidemic alert and verification) 06年レポートのまとめ：本週報とは別にWHOの警報・対応戦略部門が届出のつど発表しているレポートの06年分に関するまとめ。(1)概略：報告書に掲載する基準としてa)公衆衛生上重要であり、b)異常な、予期しなかった疾病の発生、c)国際的に波及する可能性あり、d)外国旅行や貿易の制限を要すること、以上a)-d)のうち2項目以上。各国からの報告をa)確認されたもの、b)捨てるもの、c)未確認、に分類。(2)結果：06年1-12月の間、279件の報告があり、246件(88%)が完璧に報告されていると考えられ、197件(71%)が国際的に重要、49件(18%)が重要でなく、49件(18%)が未確認であった(グラフあり)。報告された疾患197のうち37件(19%)がコレラ・水様下痢、30件が非H5N1インフルエンザ、23件が髄膜炎菌髄膜炎であり、H5N1型インフルエンザは7件であった(表あり)。情報源：ニュースメディアが重要で147件(53%)、国連や各国の公的情報源からは91件(32%)、41件が個人情報であった。報告から採択まで2日以内であった。05年報告国際的要監視疾患(表あり)。上記の掲載基準a)-d)のうち4項目以上を満たすものにチクングニアウイルス感染症、病原性大腸菌O157感染症、H5N1型インフルエンザ、リフトバレー熱があった(3項目疾患は略)。

WHO国際検疫感染症公示。3月23-29日届出。コレラ：コンゴ、ギニア、セネガル、スーダン。

2007年4月6日(82巻14号) <http://www.who.int/wer/2007/wer8214/en/index.html>

リフトバレー熱。タンザニア(注。リフトバレー熱：東アフリカ大地溝帯諸国に常在、蚊が媒介する日本脳炎類縁のアルボウイルス感染症。主たる感染動物は羊や牛。人では発熱・感冒症状から脳炎、時に出血熱。疫学や臨床像の概略は本巻3号、1月19日号の説明参照)。動物の感染初発は07年1月18日。2月上旬に最初の患者発生。タンザニア保健省、WHO事務所、米合衆国CDCチームが現地調査。WHO認定のケニア国立医学研究所(KEMRI)が検査室診断担当。07年2月中旬までに確定例8例(死亡4)。WHO、国連食糧農業機構(FAO)、ユニセフ、世界食糧計画がタンザニア保健省、食糧省を支援、担当者の訓練、財政的援助、メディアによる教育キャンペーン実施。3月中旬に新しい発生あり、死亡14例を含む58例の疑い例ありKEMRIで8例確定さらに60例の新規疑い例発生、WHOの緊急対応チームは獣医関係者と協力して対応立案と実施中(<http://www.who.int/mediacentre/factsheets/fs207/en/index.html>)。

麻疹根絶。韓国：01年初頭に麻疹根絶5カ年計画を国家的に開始。戦略は小学校入学要件として入学までに麻疹を含むワクチンを2回(MCV2)接種。全国一斉追加(catch-up)接種を、1回しか接種していない14歳までの小児に実施。麻疹の全症例サーベイランス報告と検

査室診断による確認。本報は 01 - 06 年末における麻疹根絶進捗の概略である（長文なので勝手に表題・番号をつけて抄訳した）。（1）歴史。韓国の麻疹ワクチン導入は 1965 年であり、83 年に生後 9 - 15 ヶ月、1 回法で全国定期接種を開始し、97 年から生後 12 - 15 ヶ月と 4 - 6 歳の 2 回接種法を実施している。00 年 2 月末のサーベイランスでは全国 2 回接種終了者は 7 - 9 歳で 39%であった。00 年 1 - 7 月に麻疹流行、全国で 5 万 5 千人以上の患者発生、死亡 7 例、罹患年齢は 2 歳未満の小児と 7 - 15 歳の年長児の二峰性で（グラフあり）2 歳以下罹患児の 86%がワクチン未接種児であり、学童罹患児の 80%は MCV 1 であった。流行株の遺伝子型は H1 であった。（2）01 年開始された全国戦略：01 年初頭、政府は麻疹根絶専門家会議を招集、参加者は韓国保健省、教育省、韓国予防医学研究所（CDC）、韓国予防接種助言委員会、韓国小児科学会、米合衆国 CDC、日本感染症研と WHO の各代表者であり、計画立案と実施、監視に当ることとなった。根絶作戦は 2 回接種終了を小学校入学の必須条件とし、接種率 95%を維持する。1 回ないし未接種児に対する catch-up 接種を広い年齢層で実施する。検査室とサーベイランス網強化。（3）現状。a)接種率：01 年初頭に小学校入学の必須要件とし、予防接種手帳を親が提示、2 回未終了児は入学前に個人クリニックか保健センターで接種することとした。01 年 9 月の新学期には入学該当児の 99%が 2 回目の接種済みで、その後 02 - 05 年の間、2 回終了者は 95 - 99.9%と WHO には報告されている（01 - 02 年の流行時の罹患とワクチン接種状況のグラフあり）。b)抗体保有率、感受性者の年齢分布：00 年に血中 IgG 抗体保有率を 18,135 名について調査、その結果年齢別の抗体陰性・感受性者の分布は 5.3 - 15.3%で（グラフあり）これを根拠として作戦が立てられた。c)接種状況：対象児 580 万名の 480 万名(83%)がキャンペーン期間中に MR 二混で 2 回接種完了。83.3 万名（14%）は既に 2 回終了、2.3%はその後終了、0.4%が接種禁忌者であった。16 省に地域差はなかった。D)副反応キャンペーン中に報告された副反応は 1,199 例で急性脳炎が 1 例あった。通常の副反応は発熱、頭痛、発疹であった（注：頻度の記載なし）。他に 26 例の不機嫌、不安があった。e)サーベイランス感度：感度向上の努力の結果、06 年においては麻疹疑い例の 85%から届出 48 時間以内に検査材料が採取され、血清抗体検査材料は 93%から採取された。検査室に搬入 7 日後には検査結果が報告され、伝播経路が明確な麻疹例からは 100%ウイルスが分離された。f)麻疹報告数と人口百万当り発生率：02 年の麻疹報告数 143 例、人口百万当り発生数 3.0 であり、06 年には報告数 126 例、人口百万当り発生数 2.6 であった（03 - 05 年の数は略）。ウイルス学的確定例数は 06 年は 26 例、遺伝子型は H1 であった。輸入例は年間 1 - 6 例が認められた。g)根絶目標達成状況：WHO 西太平洋地域事務所が提示した目標がこの数年間ほぼ達成されている。WHO の目標は人口百万当り年間麻疹確定例数 1 例以下：韓国は 0.12 - 0.52。韓国の MCV 2 回接種終了率 95%以上。適切な検査材料採取率は 05 年以降 80%、04 年の学童の抗体保有率 92.3%で 00 年の 87.8%より上昇。韓国における R 指数（1 例の定型的麻疹患者から二次伝播が発生する可能性の指数。< 1 で二次伝播が発生しない）1999 年に 1.51 であったのが 2000 年には 0.81 に低下、以後 0.7 - 0.8 で維持されている。h)評価：06 年 11 月 7 日の国内外の専門家委員会において韓国国内における麻疹の土着は認められないことが確認され、根絶が認められた。

WHO 国際検疫感染症公示。3 月 30 日 - 4 月 5 日届出。コレラ：コンゴ、セネガル、タンザニア。

愛知県感染症情報

2007年第15週(平成19年4月9日～平成19年4月15日)

愛知県衛生研究所

		定点数																									
愛知県		インフルエンザ	小児科	眼科	STD	基幹	RSウイルス感染症	鳥インフルエンザ(高病原性インフルエンザを除く。)	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻しん (成人麻しんを除く。)	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)	成人麻しん
愛知県 (名古屋市を含む)		195	182	35	51	13	8	1,655	36	201	1,293	404	12	129	113	0	0	3	1	67	0	12	1	0	2	0	0
総数 (名古屋市は除く)		125	112	24	37	12	6	1,342	25	131	927	306	11	100	86	0	0	2	1	55	0	9	1	0	2	0	0
名古屋	名古屋市	70	70	11	14	1	2	313	11	70	366	98	1	29	27			1		12		3					
尾張東部	瀬戸	9	9	2	3	1		87	2	5	43	18		5	8					2					1		
海部	津島	7	7	2	2	1		67	1	3	146	36	5	19	3					1							
尾張中部	師勝	4	4	1	1			39		2	41	13		1						2		1					
尾張西部	一宮	16	12	3	4	1		111	2	8	69	20	1	7	10				1			1					
尾張北部	春日井	9	9	2	3	1		163	6	13	70	27		7	8			1		3		2	1				
	江南	6	6	1	2			71	4	16	60	24		3	14					10		3					
知多半島	半田	6	6	1	2	1	1	44	3	8	27	18		1	6					11					1		
	知多	7	7	2	2		1	41	3	5	66	15	1	3	7					4							
西三河南部	岡崎市	11	7	2	2	1		48	2	13	39	18		6	12					3							
	衣浦東部	13	13	2	4	1	1	185	2	17	97	34	4	13	5					5		1					
	西尾	5	5	1	2	1		30		6	48	30		4	4			1		4							
西三河北部	豊田市	9	9	2	4	1	1	138		11	94	12		11	2					1							
東三河南部	豊橋市	12	8	2	4	1		219		13	76	16		8	4					6		1					
	豊川	9	8	1	2	1	2	86		11	48	25		12	2												
東三河北部	新城	2	2			1		13			3				1					3							

